

！災害の種類

大雨などにより、川の水量の増加や地中にしみこんだ水分などが起因となり、大きな災害に発展する場合があります。事前にその災害のメカニズムを理解し、身近に起こりえる災害に対応しましょう。

川の氾濫等

雨量の増加によってもたらされる氾濫には、川から水があふれたり堤防が決壊して起こる「外水氾濫」と、街中の排水が間に合わず、地下水路などからあふれ出す「内水氾濫」の2タイプがあります。

外水氾濫

大雨の水が川に集まり、川の水かさが増し堤防を超える、あるいは堤防が決壊させて川の水が外にあふれておきる洪水。氾濫が起きると一気に水かさが増しますので、最大の注意が必要。

内水氾濫

その場所に降った雨水や、周りから流れ込んできた水がはけきれず溜まって起きる洪水。的確なタイミングで警報や避難勧告を出すのが難しいため、注意が必要。



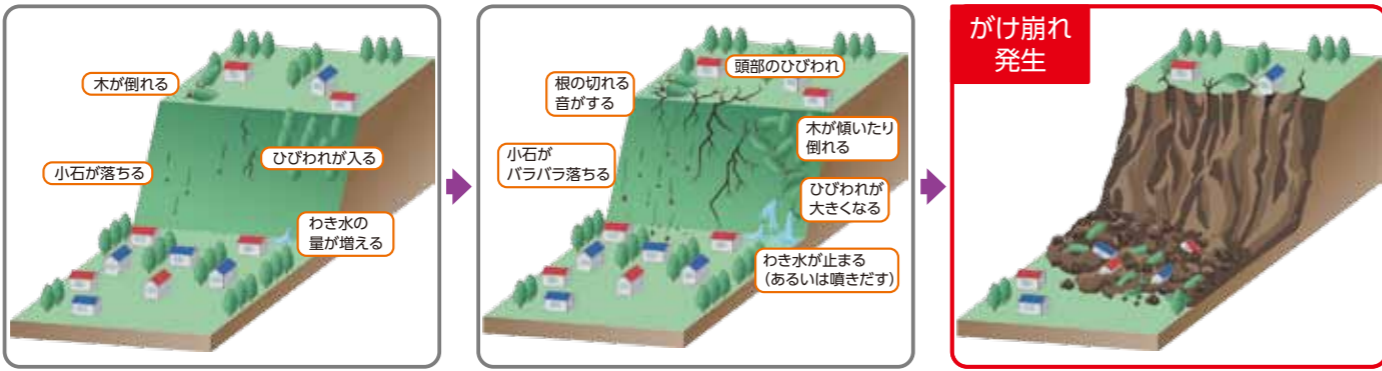
土砂災害

土砂災害警戒情報が発表されてなくても、ふだんと異なる状況「土砂災害の前兆」に気付いた場合には、直ちに周りの人と安全な場所へ避難するとともに、町役場などの関係機関に連絡してください。

日ごろから危険箇所や避難場所・避難経路を確認しておくことも重要です。
※下記は一般的な前兆現象です。すべての場合において必ず起きるといえるものではありません。ふだんと違い、少しでも身に危険を感じたら避難するようにしましょう。

がけ崩れ

地中にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、雨や地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちることをいいます。がけ崩れは突然起きるため、人家の近くで起きると逃げ遅れる人も多く、被害者の割合も高くなっています。



地すべり

斜面の一部あるいは全部が、地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象のことをいいます。一般的に移動土塊量が大きいため、甚大な被害を及ぼします。また一旦動き出すと、これを完全に停止させることは非常に困難です。



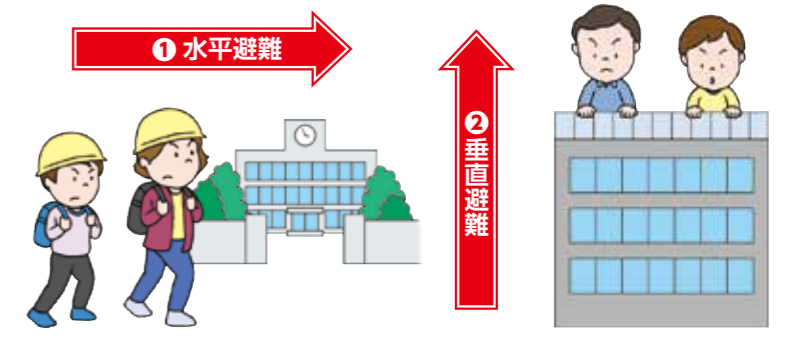
土石流

山腹・川底の石や土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流されることをいいます。その流れの速さは規模によって異なりますが、時速20~40kmという速度で一瞬のうちに人家や畑などを壊滅させてしまいます。



避難行動のポイント

1. 左ページの土砂災害の事象に注意し、早めの避難をする。
2. がけ崩れや土石流の起こる方向に対して横方向に避難(水平避難)する。
3. 夜中や大雨の中など外へ避難を行うのが危険と感じる時は、自宅2階以上の山の反対側の部屋など堅固な建物の上階へ避難(垂直避難)することも考慮しましょう。
4. 記録的短時間大雨情報が発表された場合は、早めに避難を行う。
5. 土砂災害警戒情報が発表された場合は、すぐに避難を行う。



避難に関する情報の確認

町からの避難に関する情報は、避難する時期を判断するために重要な情報です。情報の内容や入手方法を事前に確認しておきましょう。

町から伝達される避難に関する情報の種類

災害の危険性 高	避難準備・高齢者等避難開始	災害発生のおそれがあると判断されたとき、避難行動要支援者や避難に時間を要する人に早めの避難を勧めるために発令する情報。
	避難勧告	災害発生のおそれが高まったと判断されたとき、一般の住民にも避難を勧め、または促すために発令する情報。
	避難指示(緊急)	災害発生のおそれが非常に高まったと判断されたとき、住民に避難を強く促すために発令する情報。

※土砂災害警戒情報(大雨警報(土砂災害))が発表されている状況で、土砂災害発生の危険度が非常に高まった時に発表される防災情報が発表された場合は、避難勧告を発令いたします。

情報の入手方法

町からは避難に関する情報が様々な方法で発信されます(防災行政無線・町ホームページ・さかえ情報メール(※裏表紙参照)など)。事前に伝達方法を確認しておきましょう。

雪害

家庭の雪対策

- 物流の混乱に備え、水・食料などの備蓄をする。
- 停電に備えて、暖房対策(使い捨てカイロなど)、予備電池、懐中電灯、携帯ラジオなどを準備する。
- 断水に備えて、水をためておく。
- 積雪・凍結による、通路や階段などの滑りやすい場所に注意する。
- スコップ、凍結防止剤などの除雪用具を準備する。
- 不要不急の外出は極力控える。どうしても外出する場合は、普段の3倍の時間がかかるとして、ゆとりをもって出かける。
- 早期除雪は自助と共助(隣近所の人たち)で力を合わせて行う。



凍結や滑りやすい場所~こんなところにも注意!

- 日陰の坂道、日陰の歩道
- 橋、歩道橋、階段
- マンホール
- 人通りの少ない裏通り
- 雪よせ路肩と歩道の間
- 車庫、自転車置き場

など